

日本共産党県委、当面の生活確保、住宅再建支援強化等で知事に申入れ

中越沖地震の発生から10日間以上たちました。「ちよつとした揺れでも怖くて眠れなくなる」「住宅直すにも金がかかってたいへんだ」などといった声があちこちで聞こえてきます。

こうしたなか、日本共産党新潟県委員会（小日向昭一委員長）は23日、現地調査をふまえて、当面の生活確保、2次災害防止に万全を期すなど15項目の実現を泉田知事に申し入れました。

吉川区にも係りのある主なものは以下のとおりです。

- ◎高齢者や乳幼児をはじめとした健康確保に万全を期すこと。被災地域全体を対

象にした健康管理や医療ケアをおこなうこと。

◎余震や豪雨による二次災害対策に万全を期し、被害の拡大を防止すること。

◎「住宅の応急修理」の活用を徹底するとともに限度額や所得制限については実態に即した運用をおこなうよう国に求めること。同時に県独自の百万円の上乗せ措置をとること。

◎住宅再建、農地・農業用施設の復旧、中小業者の生業再生など、被災者の生活再建をはかるうえで復興基金事業は欠かせない。早急に国の許可が得られるよう強く働きかけること。

◎柏崎刈羽原発の耐震性と地震防災対策について、政府の責任で徹底的な調査・検証と再発防止策を確立するよう求めること。

すでに取り組みを開始した事項もありますが、速やかに対応してほしいものです。

住宅被害は柿崎、吉川に集中

下の表は中越沖地震の被害家屋調査についての25日の午後5時現在のデータです。数字はまだ動く可能性があります。上越市における被害は柿崎区、吉川区に集中しているのが特徴です。

吉川区では15%ほどの世帯で一部損壊以上の被害をこうむっています。建物被害はこのほか、公共施設などでも出ています。

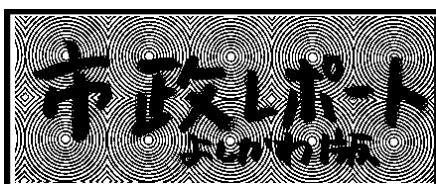


写真は市議会食料・農業・農村議員連盟の現地調査。24日。

	被災世帯数	住宅				非住宅			
		全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊
		棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟
合併前上越市	85				85	5		1	68
安塚区	18				18	1			3
浦川原区	87	1		1	85			2	42
大島区	34				34				4
牧区	27				27				4
柿崎区	294	6		14	274	104	6	22	137
大潟区	32				32				33
頸城区	110	1			109	37		4	81
吉川区	218	2	2	10	204	80	14	41	103
中郷区	0								
板倉区	1				1				1
清里区	1				1				1
三和区	15				15				5
名立区	14				14				3
合計	936	10	2	25	924	227	20	70	485



【セミの抜け殻】本格的な夏を迎えてセミの抜け殻を見かけるようになりました。この抜け殻からセミの種類、オス、メスの別、自然度などが分かるそうです。



NO 1305
2007.7.29

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一
Tel 548-3628 (有線) 4867
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www1.ocn.ne.jp/~hose/

春よ来い 第八二回 お風呂

中越沖地震から九日目。三時間ほど時間をもらって吉川区から離れ、妻とともに柏崎市にある妻の実家に出かけてきました。地震から二日後に一度訪ねているのですが、義父の病気のことも心配で、再度様子を見てきたいと思っただけです。

妻の実家がある集落に入ると、一軒残らず建物応急危険度判定が行われていました。家々の玄関には判定済みの張り紙がしてありました。妻の実家は緑色の張り紙で安全でした。玄関の下の作業所脇では、義兄のTさんが軽トラにポリの箱を山のように積んでいます。「何をやるの？」と訊きますと、「水道の水が出ないので水を汲んでくる」と言います。前回訪問した時には「水が出る」と喜んでいたので、それは水道管に残っていたもので、じきに無くなったそうです。

柏崎の義父とは一週間ぶりの再会です。「どうですか、体の調子は？」と訊（き）いたら、「いや、あんまり良くないんだ。昨日から腹が減ってどうにもならない」という答えが返ってきました。顔色もいまひとつです。「腹が減る」のは普通なことだと思うのですが、食後、たいして時間も経たないのに腹が減るというのは、体のどこかでリズムの狂いが生じているのかも知れません。

でも、義父の昼食の様子を見た限りは普通です。ご飯にお茶をかけて食べているのは、喉の通りを良くするためですし、サヤインゲンをゆでたものや煮魚も食べているところもおおしくはありませんでした。そばにいた義母が「小さなおにぎりがウマイって言うんだよ。それもタラコとスジコがいいって。サケはもくもくしていやなんだ」と言います。ベッド中心の生活スタイルもいつもと変わりません。横長のテーブルの上には、新聞のほか、農協が出しているビラ、地元の共産党組織が発行している被災者向けの制度案内ビラなどが載せられています。

朝食を食べ終わってから、義父は立って部屋のカーテンを開けました。義父にとって、いま、部屋のカーテンの開け閉めが、家族のためにやっていることを実感できる唯一の仕事になっています。カーテンをサーッと引いている時の顔は何となく、満足げな感じがしました。

カーテンを引くと裏庭が見えます。手前の方ではノカンゾウがグイッと花を伸ばし、奥の方ではオイランソウが白い花を咲かせています。そして左側の木にはノウゼンカズラが橙色（だいだいいろ）の花をからませています。夏に咲くこれらの花々を見ながら義父はさびしそうに言いました。「今年は何にも手、出せなかった」と。手入れがなくなって、花たちはとても生き生きしていました。とてもきれいです。

三〇分ほどたって、さあ、吉川に戻ろうという時に、義母が思いがけないことを教えてくれました。「あんちゃん、おやじさんを風呂に入れてやりたいというんで、水汲みの仕度をしている」と言うのです。水道が断水している間、家族は、吉川区の長峰温泉ゆつたりの郷などで入浴してきましたと言います。ただし、義父だけは別。体が不自由なため遠くには行けず、しっとりしたタオルで体を拭くだけだったのです。

この話を妻は、帰り際に義父に教えました。「あんちゃん、とうちゃんを風呂に入れるために水運びするんだって。良かったね、とうちゃん」。その言葉を聞いた義父は、「そうか」とも言いませんでした。しかし、聞いた瞬間、義父は体の動きを止め、じっと前の方を見つめていました。うれしかったんでしょね。この日、義父は自分の一生の中でも最高に気持ちのいい湯船につかったに違いありません。

年度別加入状況及び見舞金給付状況

項目	個人加入者 人	事故件数 件	見舞金給付額 円	備考
年度				
平成 3年度	2,360	6	853,600	
平成 4年度	2,504	12	1,723,860	
平成 5年度	2,446	9	861,760	死亡1件
平成 6年度	2,313	15	1,634,425	
平成 7年度	2,450	11	485,870	死亡1件
平成 8年度	2,491	16	1,209,396	
平成 9年度	2,341	4	81,510	
平成10年度	2,342	8	988,360	1級障害1件
平成11年度	2,274	5	179,090	
平成12年度	2,184	11	1,400,890	死亡1件
平成13年度	2,163	10	1,169,360	
平成14年度	2,057	7	718,460	
平成15年度	1,984	8	518,950	
平成16年度	1,965	13	1,428,357	
平成17年度	1,660	5	535,505	
平成18年度	1,577	3	121,350	
合計		143	13,910,743	

日本共産党が柏崎市に被災者相談センターを設置

中越地震の際、住民の皆さんから好評だった「被災者相談センター」がこのほど柏崎市内に設置されました。中越沖地震に伴う住宅修理など、どんなことでも相談できます。どうぞ遠慮なくご利用ください。電話番号は以下の通りです。

電話 0257-20-0908
FAX 0257-20-0909

昨年度は3件のみ

吉川区農業労働災害互助会の見舞金給付状況

吉川区農業労働災害に加入している人の昨年度の農作業事故の状況及び見舞金給付状況がこのほど明らかになりました。それによると、昨年度（昨年6月1日から今年5月31日まで）の農作業事故はチェーンソーによる切り傷など3件。見舞金給付額は12万1350円でした。